

サイタマレディース探検隊「県庁の星・部長の輪！」シリーズ
第6回 埼玉県都市整備部長 岩崎康夫 様 平成23年10月19日取材

都市整備部長岩崎康夫氏を訪問致しました。第一印象は、ソフトな声でお話になるなぁということ。このままいつまでもお話を聞いていたいと思ったほどです。もし岩崎部長から何か依頼されたら、この部長のために頑張ろうと思わせる魅力の溢れるお人柄でした。

都市整備部の事業は、都市整備政策、都市計画、住宅、公園スタジアム、田園都市づくり、建築安全、営繕など多岐に亘っていました。以前は「土木部」という名前でしたが、岩崎部長は元々土木技術者であり、4年間は土木部に配属されたこともあって、この経験が今の都市整備部長として役立っているそうです。

街づくりの基本は市町村ですが、市町村では出来ないことを県で取組んでおり、例えば、伊奈北部の生涯学習都市と常磐新線（八潮）の事業がその実例だそうです。

都市整備部の役割は、埼玉県の都市ビジョンである「誰もが安全・安心で住みつづける社会」、「都市と自然のコラボレーション」、「地域の魅力ある街づくり」、「歴史を生かした街づくり」を推進すること。さらに産業誘致を行い、歩いて暮らせる街づくりを目指して、県内の67%ある可住地域を生かしてコンパクトな都市を作ることであると語られました。

その一例としてバス停を起点にした街づくりがあります。実際にバス停をコンビニ前に移動してコミュニティづくりに努め、買い物難民の解消等環境整備を実施した地域があるそうです。また新たに「子育て応援マンション認定制度」を設け、バリアフリー、子育て



【(左)子育てマンションと(右)グリコのボックス】

に配慮した設計、さらに近くに保育所や学校があるなどの条件を整えたマンションを認定し、より良い住まいの提供ができるような取り組みを進めています。認定目標は1000戸を目指しています。

また、現状3人以上の子供がいる世帯で20坪未満の住居に居住している世帯が93000世帯あり、高齢者の単独又は夫婦2人世帯で30坪以上の住居に居住している世帯が143000世帯あることから、これらの相互賃貸関係を作り、子供

のいる世帯は 30 坪以上に、それに対して高齢者は駅近くに住んでもらう取組みを検討しているとの事で実現すればリフォームの仕事が増加することになるとのことです。そして老朽化した低層団地を高層マンションにすることでクリニック等を誘致し、高齢者支援サービスを導入するなどの再生にも取り組んでいるそうです。



3月11日の東日本大震災を機に、同様の震災に対応できる安心・安全の生活環境づくりには、緊急輸送道路の確保が大切と考え、重要幹線沿道の建物（倒壊時に道路の1/2を塞ぐ高層建物）を調査した結果、該当する216棟の耐震化を進めているそうです。これにより、被災後の物資輸送ができる体制を作るため県だけではなく該当する市との連携を取っていくとのこと。

埼玉県庁全体で事業改善活動の取組みを行っており、都市整備部としては何度か優秀賞をお取りになったそうです。特に全国先進政策大賞をとったものとして、道路整備する情報（傷んでいる状況）を把握するためにカーナビから得られる座標情報を活用したのがあります。カーナビの情報には「ブレーキを踏む」情報があり、それにより道路の状況がわかるそうです。これを利用することで、今まで労力を使って調査していたことが簡単にカーナビデータの解析でわかるようになったそうです。

都市整備部はハード面を担当し、ソフト面は他部署が行っているので連携を大切になさっているそうです。



今回、岩崎部長から様々な取組み内容を伺い、都市整備部は県民である私たちの生活に関わることも多くある一方、企業経営の新しいヒントになるキーワードや情報を多く持っていることを改めて知りました。名前からは私達にあまり関係のない、どんな仕事をしているのかわからない部署のように感じましたが、実際には色々な事業が交差するととても重要なポストにあることを知りました。

経営者の皆様も是非、この部の事業にアンテナを張っておかれることをお勧めします。